

基準地番号	提出先	所属分科会名	業者名	
江府（県） - 1	鳥取県	鳥取分科会	氏名	印

鑑定評価額	1,110,000 円	1㎡当たりの価格	3,700 円/㎡
-------	-------------	----------	-----------

## 1 基本的事項

(1) 価格時点	令和 元年 7月 1日	(4) 鑑定評価日	令和 元年 7月 11日	(6) 路線価	[平成 31年 1月]	円/㎡	
(2) 実地調査日	平成 31年 4月 10日	(5) 価格の種類	正常価格		路線価又は倍率	1.0 倍	
(3) 鑑定評価の条件	更地としての鑑定評価						倍率種別

## 2 鑑定評価額の決定の理由の要旨

(1) 基準地	①所在及び地番並びに「住居表示」等	日野郡江府町大字宮市字中屋敷366番1外				②地積 (㎡)	300	⑨法令上の規制等	都計外		
	③形状	④敷地の利用の現況	⑤周辺の土地の利用の状況	⑥接面道路の状況	⑦供給処理施設状況	⑧主要な交通施設との接近の状況		(その他)			
(2) 近隣地域	①範囲	東 150 m、西 100 m、南 50 m、北 100 m			②標準的使用	戸建住宅地					
	③標準的画地の形状等	間口 約 11.0 m、奥行 約 27.0 m、規模 300 ㎡程度、形状 ほぼ長方形									
	④地域的特性	特記事項	特になし	街路	基準方位：北10 m国道	交通施設	江尾駅 北東 2.2km	法令規制	対象基準地と同じ		
(3) 最有効使用の判定	標準的使用と同じ戸建住宅地				(4) 対象基準地の個別的要因	方位 0.0					
(5) 鑑定評価の手法の適用	取引事例比較法	比準価格	3,700 円/㎡								
	収益還元法	収益価格	/ 円/㎡								
	原価法	積算価格	/ 円/㎡								
	開発法	開発法による価格	/ 円/㎡								
(6) 市場の特性	同一需給圏は「宮市」を中心とする町内及び隣接町内の農家集落に広域的に及ぶものと判定した。需要者の中心は圏内に地縁性を有する個人であり、圏外からの転入は皆無である。売買はインフラ整備に伴う公共用地買収が散見される程度であり、個人間売買はほとんどないのが現状である。よって、需要の中心価格帯を見出すことは困難である。										
(7) 試算価格の調整・検証及び鑑定評価額の決定の理由	近隣地域周辺においてはアパート等の賃貸物件は皆無であり、賃貸市場が形成されていないことから収益価格は試算しない。比準価格は町内を中心に成約した事例を採用し試算したものであり、要因格差が大きいものも見られるが、山間の農家集落の価格水準を適切に反映しているものと考え、よって、比準価格を採用し、更に指定基準地から検討した価格との均衡並びに人口減少の程度等を再吟味した結果、鑑定評価額を上記のとおり決定した。										
(8) 規格外の価格	①代表標準地 標準地番号	②時点修正	③標準化補正	④地域要因の比較	⑤個別的要因の比較	⑥対象基準地の規準価格 (円/㎡)	⑦内訳	標準化補正	街路 交通 環境 画地 行政 その他	地域要因	街路 交通 環境 行政 その他
	公示価格 円/㎡	[ ] / 100	100 [ ]	100 [ ]	[ ] / 100						
(9) 指定基準地からの検討	①指定基準地番号	②時点修正	③標準化補正	④地域要因の比較	⑤個別的要因の比較	⑥対象基準地の比準価格 (円/㎡)	⑦内訳	標準化補正	街路 交通 環境 画地 行政 その他	地域要因	街路 交通 環境 行政 その他
	日野（県） - 1	[ 98.6 ] / 100	100 [ 100 ]	100 [ 191.5 ]	[ 100 ] / 100	3,710					
(10) 対象基準地の前年標準価格等の検討	①-1対象基準地の検討 ■継続 □新規		③ 変動状況		[一般的要因] 人口減少や少子高齢化等を背景に、宅地需要は依然として弱い。						
	前年標準価格 3,800 円/㎡		[地域要因]		山間の農家集落にあり、需要は低調で地価下落基調に変化はない。						
	①-2基準地が共通地点（代表標準地等と同一地点）である場合の検討 □代表標準地 □標準地		[個別的要因]		個別的要因に変動はない。						
	標準地番号										
	公示価格 円/㎡										
	②変動率	年間 -2.6 %	半年間 %								

①比準価格算定内訳											
NO	①取引事例番号	②所在及び地番並びに「住居表示」等	③取引時点	④類型	⑤地積 (㎡)	⑥画地の形状	⑦接面道路の状況	⑧主要交通施設の状況	⑨法令上の規制等		
a	197091-79			建付地	( )	ほぼ長方形	北西10.5m国道 中間画地		都計外		
b	197091-80			更地	( )	不整形	北8m町道 中間画地		都計外		
c	197093-32			建付地	( )	不整形	南14m県道 中間画地		都計外		
d	197093-35			建付地	( )	不整形	北西7.5m県道 中間画地		都計外		
e	-				( )						
NO	⑩取引価格 (円/㎡)	⑪事情補正	⑫時点修正	⑬建付減価の補正	⑭標準化補正	⑮推定価格 (円/㎡)	⑯地域要因の比較	⑰推定標準価格 (円/㎡)	⑱個別的要因の比較		⑲査定価格 (円/㎡)
a	( ) 4,499	$\frac{100}{[100]}$	$[\frac{99.5}{100}]$	$\frac{100}{[90.0]}$	$\frac{100}{[100]}$	4,974	$\frac{100}{[125.2]}$	3,973	街路 0.0		3,970
b	( ) 2,130	$\frac{100}{[100]}$	$[\frac{99.3}{100}]$	$\frac{100}{[ / ]}$	$\frac{100}{[81.0]}$	2,611	$\frac{100}{[76.2]}$	3,427	交通・接近 0.0		3,430
c	( ) 1,135	$\frac{100}{[100]}$	$[\frac{98.4}{100}]$	$\frac{100}{[70.0]}$	$\frac{100}{[61.4]}$	2,599	$\frac{100}{[70.5]}$	3,687	環境 0.0		3,690
d	( ) 5,988	$\frac{100}{[100]}$	$[\frac{93.8}{100}]$	$\frac{100}{[100]}$	$\frac{100}{[100]}$	5,617	$\frac{100}{[148.6]}$	3,780	画地 0.0		3,780
e	( )	$\frac{100}{[ ]}$	$[\frac{ }{100}]$	$\frac{100}{[ ]}$	$\frac{100}{[ ]}$		$\frac{100}{[ ]}$		行政 0.0		
									その他 0.0		
									$[\frac{100}{100}]$		
NO	ア事情の内容	イ月率変動率	ウ標準化補正の内訳				エ地域要因の比較の内訳				
a	正常	%/月 -0.12	街路 0.0	交通・接近 0.0	環境 0.0	街路 0.0	交通・接近 +1.0	環境 +24.0	画地 0.0	行政 0.0	その他 0.0
b	正常	%/月 -0.12	街路 0.0	交通・接近 0.0	環境 -10.0	街路 -1.0	交通・接近 0.0	環境 -23.0	画地 -10.0	行政 0.0	その他 0.0
c	正常	%/月 -0.10	街路 0.0	交通・接近 0.0	環境 0.0	街路 0.0	交通・接近 -19.0	環境 -13.0	画地 -38.6	行政 0.0	その他 0.0
d	正常	%/月 -0.20	街路 0.0	交通・接近 0.0	環境 0.0	街路 -1.0	交通・接近 +8.0	環境 +39.0	画地 0.0	行政 0.0	その他 0.0
e		%/月	街路	交通・接近	環境	街路	交通・接近	環境	画地	行政	その他
才比準価格決定の理由							〔比準価格： 3,700 円/㎡〕				

(2) 積算価格算定内訳										
(2)-1 <input checked="" type="checkbox"/> 原価法が適用できない場合その理由		既成住宅地であり、再調達原価の把握が困難なため。								
(2)-2 <input type="checkbox"/> 造成宅地内等に存し原価法の適用が可能な場合の価格										
①造成事例番号		-			②所在及び地番					
③素地の取得価格 (円/㎡)	④事情補正 [ $\frac{100}{\quad}$ ]	⑤時点修正 [ $\frac{\quad}{100}$ ]	⑥素地の補修正後の 価格 (円/㎡)	⑦造成工事費 (円/㎡)	⑧標準化補 正 [ $\frac{100}{\quad}$ ]	⑨時点修正 [ $\frac{\quad}{100}$ ]	⑩造成工事費の 補修正後の価格 (円/㎡)			
⑪付帯費用 (円/㎡)	⑫標準化補 正 [ $\frac{100}{\quad}$ ]	⑬時点修正 [ $\frac{\quad}{100}$ ]	⑭付帯費用の補修正 後の価格 (円/㎡)	⑮有効宅地化率で除 した価格 (円/㎡)	⑯地域要因 の比較 [ $\frac{100}{\quad}$ ]	⑰個別的 要因の比較 [ $\frac{\quad}{100}$ ]	⑱再調達原価 (円/㎡)			
⑲熟成度修正 [ $\quad$ ] /100				⑳積算価格 円/㎡						
内訳										
素地	事情の 内容	月率 変動率 %/月	造成 工事費	標準化補正	月率 変動率 %/月	付 帯 費 用	標準化補正	月率 変動率 %/月		
地域要因の比較		街路		交通・接近		環境		行政		その他

(3) 収益価格算定内訳							
(3)-1 収益還元法（直接法）の適用又は収益還元法が適用できない場合の理由							
<input type="checkbox"/> 直接法	①総収益 (円)	②総費用 (円)	③純収益 (円)	④建物に帰属する 純収益 (円)	⑤土地に帰属する 純収益 (円)	⑥未収入期間修正 後の純収益 (円)	⑦還元利回り (r-g) ( - ) %
	⑧収益価格		円 ( 円/㎡)				
	⑨収益価格が試算 できなかった場 合その理由						
<input checked="" type="checkbox"/> 収益還元法が適用 できない場合その 理由	アパート等はほとんどなく、賃貸市場が形成されていないため。						

以下、収益還元法適用の場合は、宅地-4 (3) - 2へ

(4) 開発法による価格算定内訳						
(4)-1 開発法の適用 <input type="checkbox"/> する <input checked="" type="checkbox"/> しない		開発法を適用する場合の理由				
①収入の現価の総和 (円)	②支出の現価の総和 (円)	③投下資本収益率 (%)	④販売単価(住宅) (円/㎡)	⑤分譲可能床面積 (㎡)	⑥建築工事費 (円/㎡)	⑦延床面積 (㎡)
⑧開発法による価格		円 ( 円/㎡)				

以下、開発法適用の場合は、宅地-6 (4) - 2へ